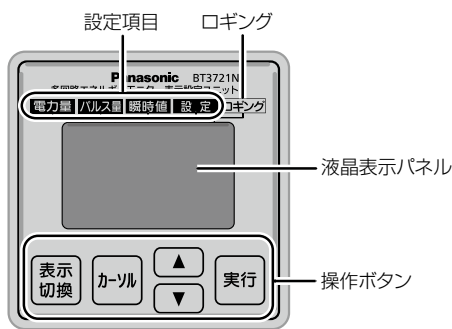
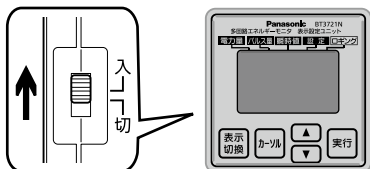


3-9 通信の設定

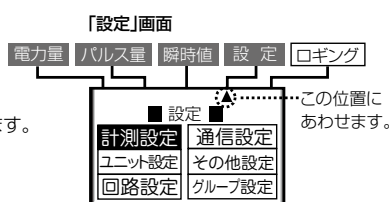


- ・通信方式は、「EMIT」(2線式/EMITプロトコル)、「MEWT」(2線式/MEWTOCOLプロトコル)、「WHM」(4線式/WHプロトコル)のいずれかを選びます。
- ・通信速度は、「4.8 kbps」、「9.6 kbps」、「19.2 kbps」、「38.4 kbps」のいずれかを選びます。
(通信方式で「WHM」を選択した場合は、「標準」、「互換」のいずれかを選びます。)

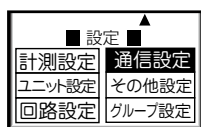
1 表示設定ユニットの電源を入れる



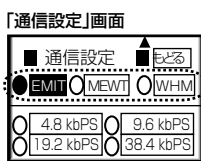
2 [表示切換]を押して「設定」にあわせる



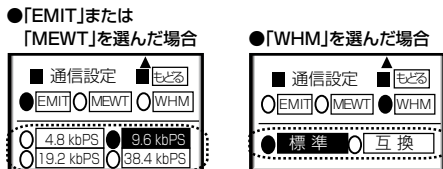
3 [カーソル]を押して「通信設定」を選び、[実行]を押す



4 [カーソル]を押して通信方式を選び、[実行]を押す



5 [カーソル]を押して通信速度を選ぶ



ご注意
・「標準」を選択してください。

6 [カーソル]を押して「もどる」を選び、[実行]を押す

[設定]画面に戻ります。
以上で通信の設定は完了です。

ご注意
・通信方式と通信速度の設定は、上位システムの仕様に合わせてください。

3-10 設定変更

回路構成変更の手順

多回路エネルギーモニターを使い始めたあと、構成を変更したいときは下記の手順を行ってください。

- ・本体ユニットの電源を切るときは、計測を停止してください。(41頁)
- ・構成を変更するときには、必要なデータをSDメモリーカードに保存してください。(47頁)

ご注意

一度も計測開始していない場合、「ユニット設定」や「回路設定」が行われている状態で5分経過しても計測開始はしません。必ず「計測開始」を手動で行ってください。

■CT・CTケーブル・パルス入力ケーブルの追加

- ①計測を停止する(41頁)
- ②追加するCT、CTケーブル、パルス入力ケーブルを準備する
- ③増設ユニットのケーブル差込口に準備したものを取り付ける(32頁)
- ④CT定格、パルス入力の設定をする(36～38頁)
- ⑤計測を再開する(41頁)

■CT・CTケーブル・パルス入力ケーブルの取り外し

- ①計測を停止する(41頁)
- ②増設ユニットからCT、CTケーブル、パルス入力ケーブルを外す
※CT二次側開放にならないように、最初にCTを測定対象電線から外してください。
- ③外した回路を「未設定」に設定する(36頁)
- ④計測を再開する(41頁)

■集計日時の設定変更

- ①計測を停止する(41頁)
- ②集計日時を変更する(40頁)
- ③計測を再開する(41頁)

ご注意

使用中に「集計日時の変更」を行うと、月別データの縮め時間が変更されるため前月データが消去される場合があります。使用中に集計日時を変更する場合はSDメモリーカードなどで計測データのバックアップをとってから行ってください。

■増設ユニットの追加

- ①本体ユニットの電源を切る
- ②増設ユニットを追加する(25頁)
- ③アドレスを設定する(26頁)
- ④追加した増設ユニットにCTケーブルまたはパルス入力ケーブルを接続する(30～32頁)
- ⑤電源を再投入
- ⑥CT定格、パルス入力の設定をする(36～38頁)

■増設ユニットの取り外し

- ①本体ユニットの電源を切る
- ②増設ユニットを取り外す(26頁)
- ③電源を再投入
- ④外した増設ユニットの各回路を「未設定」に設定する(36頁)

■相線式・PT比の変更

- ①本体ユニットの電源を切る
- ②相線式・PT比など配線を変更する(28～31頁)
- ③電源を再投入
- ④変更内容を表示ユニットで設定する(35頁)

ご注意

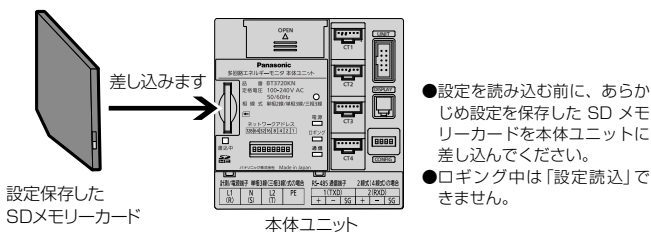
・相線式を変更後に計測開始すると設定・データはクリアされます。
・パルス計測データのクリア(153頁)
・相線式・回路の設定(「未接続」に変更)を変更すると、ロギングデータはクリアされます。変更する場合は注意してください。
・バックアップ電池を取り付けていないと、以下のデータが消去されます。
・時計データ ・自動ロギングデータ ・詳細ロギングデータ
・一度「計測開始」した後、計測停止した場合「ユニット設定」「回路設定」がされればその5分後に、自動で計測を再開します。
・増設アドレスの変更は本体ユニットの電源を切った状態でを行い、アドレス変更後に再度電源を入れてください。電源を入れた状態で変更しても、変更は認識されません。

3-11 設定の読み込み

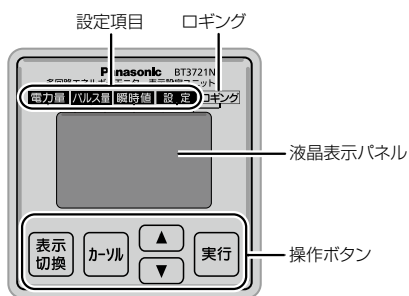
SDメモリーカードから設定情報を読み込み、その情報を本体ユニットに設定します。

読み込むファイルは、「設定保存」で保存した「保存用設定ファイル」です。設定情報には、以下の内容が含まれます。

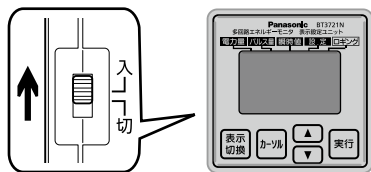
- ・集計日時
- ・通信設定(プロトコル、通信速度)
- ・ユニット情報(相線式、PT比)
- ・ポート情報(CT選択、電圧選択、電流レンジ切り替え)
- ・パルス入力設定(パルス単位、重み)
- ・グループ情報(グループ設定無効/有効、グループ登録情報)



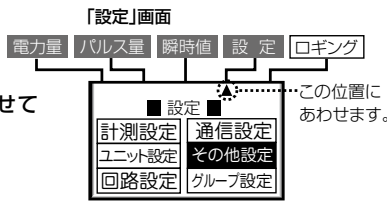
- 設定を読み込む前に、あらかじめ設定を保存したSDメモリーカードを本体ユニットに差し込んでください。
- ロギング中は「設定読み込み」できません。



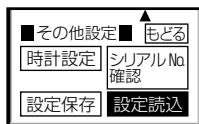
1 表示設定ユニットの電源を入れる



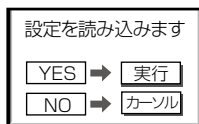
2 [カーソル]を押して [その他設定]にあわせて [実行]を押す



3 [カーソル]を押して [設定読み込み]にあわせて [実行]を押す



4 [実行]を押すと、設定を読み込みます [カーソル]を押すと、設定を読み込みます前画面に戻ります



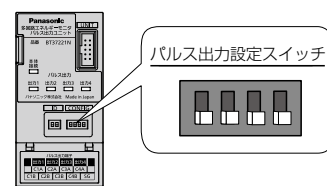
5 [カーソル]を押して[もどる]にあわせ [実行]を押すと、[設定]画面に戻ります 以上で設定の読み込みは完了です。

●時計が設定されているかご確認ください。(34頁参照)

3-12 パルス出力ユニットの設定

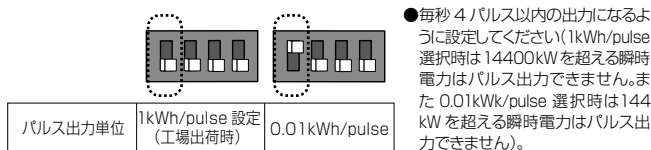
■パルス出力設定スイッチ

パルス出力ユニットを使用するには、設定スイッチでパルス出力単位、パルス出力端子の割り当ての設定が必要です。



■パルス出力単位の設定

積算電力量のパルス出力単位を選択できます。積算電力量がその単位に達するとに接点出力からパルスを出し、同時に出力表示LEDが点滅します。(例：1kWh/pulseを選択時、計測している積算電力量が1kWh増えるごとにパルスを出します)パルス出力単位は、下図の点線枠部分のスイッチで設定します。毎秒最大4パルス出力可能です。



■パルス出力端子の割り当て

パルス出力端子の割り当ては、下記の点線枠部分のスイッチで設定します。

- グループ設定「無効」時
単相2線式の場合は、単相2線式の切替スイッチの設定も必要です。パルス出力端子に個別回路No.を4回路単位で割り当てます。

パルス出力端子	表示設定ユニット 対応回路 No.	表示設定ユニット 対応回路 No.	表示設定ユニット 対応回路 No.	表示設定ユニット 対応回路 No.
出力1	回路01	回路05	回路09	回路13
出力2	回路02	回路06	回路10	回路14
出力3	回路03	回路07	回路11	回路15
出力4	回路04	回路08	回路12	回路16

単相2線式の切替スイッチ

単相2線式の場合は、切替スイッチの設定により、下図のように割り当てます。ポイント：回路が単相2線式でない場合は、スイッチの向きはどちらでもかまいません。

パルス出力端子	表示設定ユニット 対応回路 No.	表示設定ユニット 対応回路 No.
出力1	回路01R	回路03R
出力2	回路01T	回路03T
出力3	回路02R	回路04R
出力4	回路02T	回路04T

●グループ設定「有効」時

パルス出力端子にグループNo.を4グループ単位で割り当てます。

パルス出力端子	表示設定ユニット 対応グループ No.	表示設定ユニット 対応グループ No.	表示設定ユニット 対応グループ No.	表示設定ユニット 対応グループ No.
出力1	回路 Gr.A	回路 Gr.E	回路 Gr.I	回路 Gr.M
出力2	回路 Gr.B	回路 Gr.F	回路 Gr.J	回路 Gr.N
出力3	回路 Gr.C	回路 Gr.G	回路 Gr.K	回路 Gr.O
出力4	回路 Gr.D	回路 Gr.H	回路 Gr.L	回路 Gr.P

概要編

多回路エネルギーモニター

設定編

エネルギーS

商品編

デマンドウォッチャー

商品編

LAN対応ユニット

商品編

電力メーターユニット

商品編

システム編

付録